

# 大津けいはん タイムス

「大津けいはんタイムス」を手にとっていただきありがとうございます。本紙は大津市内を走る京阪電車沿線の人々との交流と、まちの活性化を目指し「大津の京阪電車を愛する会」の会員自らが作った情報紙です。

★「大津の京阪電車を愛する会」は、貴重な公共機関としての京阪電車大津線（京津線・石山坂本線）の利用促進を図ることなどを目的に設立された市民団体です。



④ 一時の記念日「生んだ水時計」

天智天皇を祀る近江神宮に、漏刻という水時計が江戸時代の文献などを基に復元されている。水槽を階段状に配置し、最下段にある浮き矢が注がれる水量に合わせ徐々に上昇。矢の目盛り位置で時刻を知る。正確に刻むため注水量を一定に保つように工夫され、専門家によって管理されていた。中国では紀元前周代の漏刻の記録が残る。時の記念日は、「天智10（671）年4月25日（太陽暦6月10日）に漏刻を作り、鐘と鼓を打って時を知らせた」という日本書紀の記述に拠る。 近江神宮前駅下車。

## 明治大正に枯れた名水

### ■練貫水(ねりぬきのみす)

三井寺町の曹洞宗練寺境内にある。天智天皇の御衣の糸をこの水で練ったことからこの名称が起った。豊臣秀吉が来寺したとき、この水で点てた茶をほめ、その後聚楽第から日々この水を求めて茶を味わったという。しかし疏水工事のため、水脈が切れて水が湧かなくなった。近辺の長等山は、三井寺の闘伽井(あかい)など名水が湧くことで知られる。 三井寺駅下車。



### ■関蟬丸神社下社「せきのしみず」

関蟬丸神社下社の拝殿前に「せきのしみず」の碑が立ち、関の清水と伝わる井戸がある。1921(大正10)年に国鉄(現JR)の路線変更により、神社横の逢坂山へトンネルを開削したときに井戸水が枯れたと伝わるが、詳細ははっきりとしない。井戸のそばには紀貫之が詠んだ和歌「逢坂の 関の清水に 影見えて 今やひくらむ 望月の駒」が刻まれた石碑もある。 上栄町駅下車。



## 高さ40mの花「びわこ花噴水」



(公社)びわこビクターズビューロー

明治時代に出来た京都市と大津市を結ぶ琵琶湖疏水。京都人の飲料水だけでなく産業を支えた。物資の運搬船や旅客のための遊覧船も運航された。しかし、自動車や鉄道等の発達に伴い、舟運は徐々に減り、1951年に疏水の船は役目を終えた。その後、観光としての舟運の復活を望む声は幾度となく起こり、2018年、桜と紅葉の季節に再開されることになった。 三井寺駅下車。

## 疎水遊覧船 春秋に復活



沿線

# 水

紀行

## 近場の秘境「飛竜の瀧」



日吉大社境内の静寂の中、大宮川沿いに進むと西本宮の奥から瀧の音、川のせせらぎが響いている。ここは断層が川になった珍しい地形ともいわれ、両岸に巨石が重なり瀧を構成している。瀧のそばの岩の上に建つ木造高床式の「日吉山荘」は築90年。7月下旬ごろから川床も設けられお休み処となり、秋には紅葉も存分に楽しめる。近場の秘境のようなところだ。 坂本比叡山口駅下車。

## 谷のいけすで湖魚たち元気



逢坂の関近くにある魚重産業株式会社では、いけすに地下105mからくむ水と吾妻川の水を使って、琵琶湖の湖魚(鮎・鯉・鱒・鰻など)を取り扱う。地下水は水温が14~15℃で一年中変わらないので、水温変化に敏感な鮎に使い、鯉や鰻には吾妻川の水を使う。近辺の山から湧き出る水は逢坂の関に至る谷へと流れ、琵琶湖に注ぐ。かつて生活用水にも使えたという吾妻川の水は、今も湖魚に元気を与える。 上栄町駅下車。

## キシリ音対策にレール散水

急カーブの多い京津線では車輪とレールの間で発生するキシリ騒音が問題だった。この騒音が雨天時には減ることから、レールへの散水を始めた。約2~3mの水道水を列車通過にあわせて散水する。散水開始と終了は踏切警報向け信号を利用する。散水は御陵~京阪山科間、四宮車庫内、四宮~追分間、大谷~上栄町間で計9カ所行われている。散水時間を四季により若干調整する。夏場は少し長く散水する。



番外

## 壁に描かれた大洪水水位線



瀬田の唐橋両岸のたもとには瀬田川を日々見守る小さな建物がある。

西岸の高床式の建物は1874(明治7)年開設の「鳥居川水位観測所」。琵琶湖水位の基準点と瀬田川の洪水予報の基準点として重要な役割を担う。1896年の琵琶湖大洪水時には観測所も床上まで浸水した。建物周囲に当時の水位が青い線で描かれ、各地で豪雨が頻発する現在への警告となっている。

東岸の円錐型屋根の建物は「唐橋流水質自動観測所」。水質自動監視で調査をしている。 唐橋前駅下車。

## 地域の水場「エンコ」復元



瀬田川沿いの橋本町では江戸期以前より、地下100mの水脈から自噴している水を「エンコ」という設備で集団で使ってきた。水温16度。夏はスイカやトマトを冷やし、タイヤで水遊びが出来た。冬は湯気が出るという。ピーク時は100箇所ほどあったが、1965年頃に水道が出来ると姿を消して行った。この地域の水文化を残そうと地元自治連絡協議会が昨年「エンコ」を復元。別の一基を当時のままに保存している。 唐橋前駅下車。

京阪膳所駅は2018（平成30）年3月に坂本行きのホームを約5m直線方向に移動し、最大37cmもあった電車とホームの隙間が2/3程度に改善され、乗降時の安全性が増した、また、石山寺行きホームへのスロープも緩やかになり、利用者に優しい駅になった。JR膳所駅も橋上駅舎に改修され、京阪膳所駅を出るとすぐにJR膳所駅に直結するエスカレーター、エレベーターが設置され、乗り換えは大変便利になっている（写真右下）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。現在この辺りからは、家々の間からしか琵琶湖が見えない。創建当時は眼前に琵琶湖が大きく広がっていて、湖からは青い屋根に輝く十字架を見上げられたと想像できる。

さらに坂を下ると旧東海道に突き当たり、義仲寺がある。平安末期に平家討伐の兵を挙げ、この地で壮烈な最期を遂げた木曾義仲が葬られている。江戸中期には、琵琶湖の美しさと近江の墓をこよなく愛した松尾芭蕉が度々訪れ、遺言により彼の墓もここに立てられている。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。

1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。

1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。

1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅は2018（平成30）年3月に坂本行きのホームを約5m直線方向に移動し、最大37cmもあった電車とホームの隙間が2/3程度に改善され、乗降時の安全性が増した、また、石山寺行きホームへのスロープも緩やかになり、利用者に優しい駅になった。JR膳所駅も橋上駅舎に改修され、京阪膳所駅を出るとすぐにJR膳所駅に直結するエスカレーター、エレベーターが設置され、乗り換えは大変便利になっている（写真右下）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。現在この辺りからは、家々の間からしか琵琶湖が見えない。創建当時は眼前に琵琶湖が大きく広がっていて、湖からは青い屋根に輝く十字架を見上げられたと想像できる。

さらに坂を下ると旧東海道に突き当たり、義仲寺がある。平安末期に平家討伐の兵を挙げ、この地で壮烈な最期を遂げた木曾義仲が葬られている。江戸中期には、琵琶湖の美しさと近江の墓をこよなく愛した松尾芭蕉が度々訪れ、遺言により彼の墓もここに立てられている。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。

1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。

1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。

1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅は2018（平成30）年3月に坂本行きのホームを約5m直線方向に移動し、最大37cmもあった電車とホームの隙間が2/3程度に改善され、乗降時の安全性が増した、また、石山寺行きホームへのスロープも緩やかになり、利用者に優しい駅になった。JR膳所駅も橋上駅舎に改修され、京阪膳所駅を出るとすぐにJR膳所駅に直結するエスカレーター、エレベーターが設置され、乗り換えは大変便利になっている（写真右下）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。現在この辺りからは、家々の間からしか琵琶湖が見えない。創建当時は眼前に琵琶湖が大きく広がっていて、湖からは青い屋根に輝く十字架を見上げられたと想像できる。

さらに坂を下ると旧東海道に突き当たり、義仲寺がある。平安末期に平家討伐の兵を挙げ、この地で壮烈な最期を遂げた木曾義仲が葬られている。江戸中期には、琵琶湖の美しさと近江の墓をこよなく愛した松尾芭蕉が度々訪れ、遺言により彼の墓もここに立てられている。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。

1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。

1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

京阪膳所駅から琵琶湖に向かって坂を下り左手に折れると、小高い丘の上に青く光る瓦葺きの大屋根が目を引く建物が見える。屋根の上には十字架があり、正面に回ると玄関の扉にも十字架があることから教会と分かる（写真左）。

1940(昭和15)年、建築に携わったパーン教区長の「信仰の土着化」という考えから、カトリック教会の建物は日本風土に合わせるべきとの信念に基づき建築された。玄関はカラフルなタイル張り、教会らしいアーチの柱、窓はステンドグラスがあり清楚でかつ厳肅な祈りの聖堂である（教会内の撮影には許可が必要）。

膳所駅前商店街のことをよく知る膳所育ちの奥村武史さん（74歳）にお話を聞いた。昭和30年代までは湖岸はまだ埋め立てられておらず、膳所駅前からも湖がよく見え、みんなで泳いだという。静かな落ち着いた町だったと懐かしむ。昭和40年代に入り埋め立てが終わり、その地に西武百貨店が出店することになったのは1976(昭和51)年のこと。駅前商店街では大型店進出に賛否両論あったが、西武側から「共存共栄でいきましょう」という提案があり、難しい判断だったが受け入れた。大型店の進出に、商店街もいかに活路を見出そうかと奮闘した話しを伺った。西武のオープン当時は遠く米原や草津からお客さんが大勢来て、駅前商店街も潤った。その頃、膳所駅から西武に向かう坂を「大津の竹下通り」とも呼ばれたが、大津市が坂の名称を新たに公募し「ときめき坂」と命名された（写真右）。

# 時勢と奮闘「ときめき坂」

## 途中下車の小さな旅



石山坂本線 駅名近くの①～⑩は1面「沿線水紀行」の写真番号、A～Dは下欄「街歩き情報」の写真番号です。



4駅名改称 ことし3月17日から、「浜大津」は「びわ湖浜大津」駅、「別所」は「大津市役所前」駅、「皇子山」は「京阪大津京」駅、「坂本」は「坂本比叡山」駅に改称された。びわ湖、比叡山などを訪れる観光客にも、沿線住民にも、わかりやすく利用しやすくするためという。

## 街歩き情報 この秋 ぜひ訪ねてみたい4施設

### 公人(くにん)屋敷[旧岡本邸]

大津市坂本6丁目27-10、坂本比叡山駅下車徒歩3分

【開館】9～17時・入館は16時半まで(原則月曜休館、詳しくはHP等)

【入館料】大人100円・小人50円 ☎077-578-6455

江戸時代後期に建設されたと推定される、比叡山の門前町坂本を代表する特徴的な建造物。出家しながら妻帯と名字帯刀を認められ、寺務を務める「公人」であった岡本家の屋敷。徴収した延暦寺への年貢米を保存した米蔵や、滋賀院門跡等にありさつに出かける上級武家の馬を預かった馬屋も現存する。また広い台所の奥には、味噌や醤油、漬物などを保存していた地下室・室(むろ)も見られる。同家で使用されていたもの以外の、昔の道具類の展示もある。

### 三橋節子美術館[長等創作展示館]

大津市小関町1-1、上栄町駅下車徒歩10分

【開館】9～17時・入館は16時半まで(原則月曜休館、詳しくはHP等)

【入館料】一般320円・高大学生240円・小中学生・市内65歳以上160円 ☎077-523-5101

35歳の若さで逝った京都出身の画家・三橋節子の作品を展示する美術館。結婚後、長等山の自然の中で草花などを中心に描いていたが、病いにより利き腕を切断し、左手で創作。近江の歴史や自然をテーマとしつつ、死に向き合う自分の気持ちや残していかねばならない子どもたちへの愛情が表現された作品として、観る人の心を強く動かす。「鬼子母」「花折峠」「三井の晩鐘」などの常設の絵のほか、11月11日(日)までは、『辞世の画』と題して「余呉の天女」など3点が特別展示されている。

### 膳所焼美術館[膳所焼窯元 陽炎園]

大津市中庄1丁目22-18、瓦ヶ浜駅下車徒歩1分

【開館】10～16時(原則月・火曜休館、詳しくはHP等)

【入館料】大人600円・高校生以下(抹茶・菓子付き)500円 ☎077-523-1118

膳所焼は、江戸初期に起こった膳所藩のお庭焼。作品は主に茶道具で、小堀遠州の指導を受け、遠州七窯の一つとして茶人より愛された。特に茶入、水指が名高い。藩による膳所焼は長くは続かず、梅林焼、雀ヶ谷焼へと受け継がれていったが、明治維新とともに中絶。大正8(1919)年、膳所の岩崎健三が友人である日本画家 山元春拳とはかり、登り窯を築いて再興し陽炎園と名付けた。美術館は、岩崎家所有の古膳所焼や茶道具類を公開するために昭和62(1987)年に設立。古膳所焼を用いて茶会が催されることもある。春拳の書「以美津焼(いびつやき)・坤外道人」が同館に残っている。これは絵画制作の合間に窯を訪れひねった自らの作品のことを評しているようだ。

### 大津絵ギャラリー

大津市浜大津2丁目1-30、三井寺力餅本家2階

びわ湖浜大津駅下車徒歩2分

【開館】7～19時(年中無休) 【入館料】無料 ☎077-524-2689

ギャラリーのある「三井寺力餅本家」は駅の陸橋から見える。大津絵の技法を現代に継承している4代目高橋松山の代表作や新作のほか、同師による浜大津・三井寺界隈のスケッチ画も展示。同店の先代が集めた著名人による絵画や、俳句色紙も必見。

京阪石山駅近くに音楽制作事務所を構える安田旺司(やすだおうじ)さん(43歳)(写真)は、大阪府枚方市の生まれ。小さい時からピアノを習っていて、中・高校時代にはバンドをやっていた。音大に進学したが、本場で腕を磨きたいとイタリアの国立音楽院声楽科を受験するために猛勉強、合格を機に20歳で大学を中退し、ローマへ留学した。卒業後イタリアでオペラデビュー、その後2005年30歳でびわ湖ホール劇場歌手として就職が決まったのが、大津と関わるきっかけとなった。2010年に同ホールとの契約が切れるにあたり、好きなクラシック音楽に深く携わり続けるため起業、大津を拠点に選んだ。「都会に比べ大津の人の居なさが加減が大好き」とか、商売する人の言葉とは思えないが、落ち着いて仕事ができるからなのだろうか。石坂線の電車を借り切って、音楽会を3年続けて行った(写真)。異空間の中でもなるべく本物に近いものをと、アップライトピアノを積み込み車内で調律も行うほどの入れ込みよう(写真)。生演奏と生歌、

## 京阪沿線 でがんばる人たち

### クラシックファンを増やすため 街で歌う声楽家・安田旺司さん

「今あなたのいるその場所が 未来のコンサート会場です」



駅名近くの①～⑩は1面「沿線水紀行」の写真番号、A～Dは下欄「街歩き情報」の写真番号です。



ことし3月17日から、「浜大津」は「びわ湖浜大津」駅、「別所」は「大津市役所前」駅、「皇子山」は「京阪大津京」駅、「坂本」は「坂本比叡山」駅に改称された。びわ湖、比叡山などを訪れる観光客にも、沿線住民にも、わかりやすく利用しやすくするためという。

## 生き抜く力を育む

### 明日が楽しみな 学校でありたい

### 国立大学法人 滋賀大学教育学部 附属特別支援学校

### 沿線の 学校へ行こう

石坂線滋賀里駅で下車、琵琶湖側へ5分ほど歩いた唐崎学区区際川に「滋賀大学教育学部 附属特別支援学校」がある。1966(昭和41)年、膳所の滋賀大学教育学部附属小学校で特殊学級「比良組」開設が始まりで、1979年に、際川に新築移転した。現在、小学部(14人)、中学部(17人)、高等部(24人)計55人の学び舎だ(教員数37人)。「ここは肢体不自由児の学校ではないので、エレベーターはないのです」と語る同校の丸田尚志副校長からお話を伺った。教育学部の附属学校として、教員を目指す滋賀大学の学生すべてがここで教育実習を行う。介助や交流などの体験を通して、障害児への理解の推進を図る。さらに地域の障害児教育のセンター的役割も果たしている。

<ひとりひとりに合った自立と社会参加>

「子どもが学んでよかった」、「保護者を選んで良かった」、

京阪膳所駅は2018（平成30）年3月に坂本行きのホームを約5m直線方向に移動し、最大37cmもあった電車とホームの隙間が2/3程度に改善され、乗降時の安全性が増した、また、石山寺行きホームへのスロープも緩やかになり、利用者に優しい駅になった。JR膳所駅も橋上駅舎に改修され、京阪膳所駅を出るとすぐにJR膳所駅に直結するエスカレーター、エレベーターが設置され、乗り換えは大変便利になっている（写真右下）。

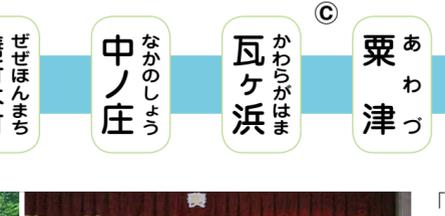
## 京阪沿線 でがんばる人たち

### クラシックファンを増やすため 街で歌う声楽家・安田旺司さん

「今あなたのいるその場所が 未来のコンサート会場です」



駅名近くの①～⑩は1面「沿線水紀行」の写真番号、A～Dは下欄「街歩き情報」の写真番号です。



ことし3月17日から、「浜大津」は「びわ湖浜大津」駅、「別所」は「大津市役所前」駅、「皇子山」は「京阪大津京」駅、「坂本」は「坂本比叡山」駅に改称された。びわ湖、比叡山などを訪れる観光客にも、沿線住民にも、わかりやすく利用しやすくするためという。

## 生き抜く力を育む

### 明日が楽しみな 学校でありたい

### 国立大学法人 滋賀大学教育学部 附属特別支援学校

### 沿線の 学校へ行こう

石坂線滋賀里駅で下車、琵琶湖側へ5分ほど歩いた唐崎学区区際川に「滋賀大学教育学部 附属特別支援学校」がある。1966(昭和41)年、膳所の滋賀大学教育学部附属小学校で特殊学級「比良組」開設が始まりで、1979年に、際川に新築移転した。現在、小学部(14人)、中学部(17人)、高等部(24人)計55人の学び舎だ(教員数37人)。「ここは肢体不自由児の学校ではないので、エレベーターはないのです」と語る同校の丸田尚志副校長からお話を伺った。教育学部の附属学校として、教員を目指す滋賀大学の学生すべてがここで教育実習を行う。介助や交流などの体験を通して、障害児への理解の推進を図る。さらに地域の障害児教育のセンター的役割も果たしている。

<ひとりひとりに合った自立と社会参加>

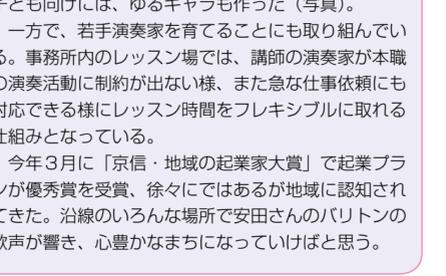
「子どもが学んでよかった」、「保護者を選んで良かった」、

京阪膳所駅は2018（平成30）年3月に坂本行きのホームを約5m直線方向に移動し、最大37cmもあった電車とホームの隙間が2/3程度に改善され、乗降時の安全性が増した、また、石山寺行きホームへのスロープも緩やかになり、利用者に優しい駅になった。JR膳所駅も橋上駅舎に改修され、京阪膳所駅を出るとすぐにJR膳所駅に直結するエスカレーター、エレベーターが設置され、乗り換えは大変便利になっている（写真右下）。

## 京阪沿線 でがんばる人たち

### クラシックファンを増やすため 街で歌う声楽家・安田旺司さん

「今あなたのいるその場所が 未来のコンサート会場です」



駅名近くの①～⑩は1面「沿線水紀行」の写真番号、A～Dは下欄「街歩き情報」の写真番号です。



電車に乗っているときに、ふとお祭りの雅やかな音色を耳にしたことはないだろうか。大津の町を電車が走り始めたのは約100年前から。大津の町にはそれよりもずっと遙か昔から社寺が軒をならべる。大津線の駅を降りれば、なにかしらの社寺を見かけない駅がないほどだ。様々な多くの人々が集い、日常とは違う特別な日。華やかな巡行やしきたりのある例祭を、地域に密着して走

## 京阪電車知って得する! まめ知識

る大津の京阪電車との様子とともに紹介する。事故防止と定時運行のために助役さんたちが警戒出動している。

# 沿線の祭りに助役さん警戒出動

祭りに参加される皆さんの安全を守り、また列車の運行の妨げにならないよう、駅や踏切道で助役さんによる警戒が行われる例祭を表にまとめてみた。

### 助役さんが出動する祭り

石山坂本線	例祭	開催日
穴太駅	高穴穂神社祭礼	5月3日
びわ湖浜大津 ～三井寺駅	三尾神社祭礼 長等神社祭礼	5月3日 5月5日
唐橋前駅	船幸祭	8月17日

京津線	例祭	開催日
びわ湖浜大津 ～上栄町駅	関蟬丸芸能祭(写真②)	5月最終日曜
	長等神社祭礼(写真③)	5月5日
	大津祭(写真①)	10月体育の日
四宮駅 (京都府)	四宮(徳林庵) 地蔵尊めぐり	8月22日・23日

助役さんによる警戒がない例祭もあるので、ここにあげるのが祭りのすべてではない。例えば新年が明けた頃、三尾神社の蛇打ち神事に使われる大きな飾り付け(写真④)を三井寺駅に到着する直前に車窓から眺められる。5月には膳所五社まつりという長く地域に続く例祭もある(写真⑤集合場所の神社へ向かうみこし)。お稚児さんの行列が踏切を渡るところに出会うかもしれない(写真⑥錦織の宇佐八幡宮の稚児行列)。

### 事故防止に全力

「助役さんによる警戒とは?」と思われるだろうが、会社に尋ねると、目的はこのようなとおっしゃる。



踏切道や併用軌道では「列車の運行に支障を及ぼさないこと、および事故の防止」「踏切道では、踏切横断の安全を図る、踏切道内での立ち往生などを発生させない」列車への添乗(運転士の他に助役が運転室に入ること)では

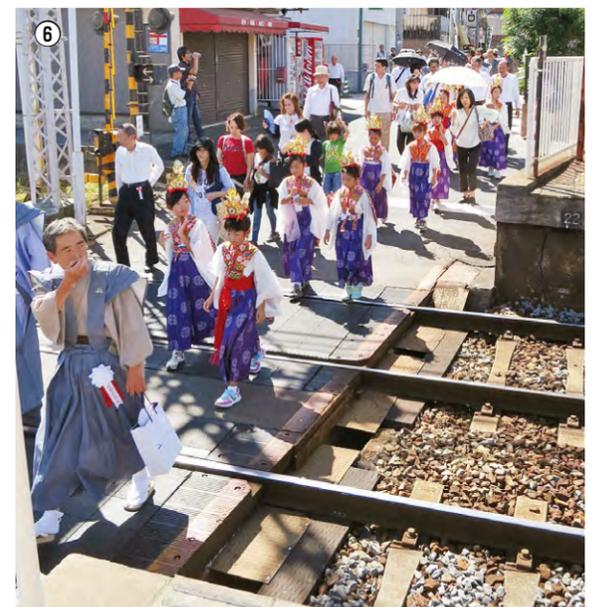
「運転士1人による前方確認に加えて、添乗者と2人で前方確認することにより事故防止を図る」いずれの警戒も、「運行する列車(車両)との接触事故の防止に注意している」とのこと。

地域にとって年一度の華やかな例祭の日が終わったとき、警戒に当たった助役さんは「無事に例祭が終了されることを嬉しく思う」とのことだ。



逆に「例祭の警戒で困ることは?」と尋ねてみると撮影マナーについてだった。大津祭では沿線で見物する人、写真を撮る人が多く、列車接近時に関わらず、直前を横断したり、軌道敷内での撮影をする人を多く見かける。警戒に当たる助役さんは、観光客の警戒も含めて限られた人数でそのすべてに対応しなければならないのだ。

これからも例祭と電車との光景を見続けることが出来るように、例祭を守り続ける人、見物する人、撮影する人ともども、お互いに良き関係を続けて行きたいものだ。



困っている撮影マナー

## 愛する会のイベント

クイズラリー  
& ちょこっとウォーク  
京阪電車で巡る旧街道

11月17日(土)に予定しています。京阪電車大津線沿線に残る旧東海道、旧北国海道(西近江路)の雰囲気や、脚力に応じて電車と徒歩で楽しむイベントを企画中です。乞うご期待!!

\*応募方法等詳細につきましては、1ヶ月前をめどにホームページに掲載いたします。奮ってご参加ください。

## 大津の京阪電車を愛する会 会員募集中!

皆さんも本会とともに京阪電車大津線を支えていきませんか?

### 入会方法

- 入会は1口2,000円です。
- ご住所、ご連絡先を電話(077-528-2736)、FAX(077-527-1028)にてお伝えいただければ、申込用紙兼振込用紙をお送りさせていただきます。
- 申込用紙兼振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの郵便局で会費をお振込ください。後日会員証、乗車券等をお送りいたします。

### 会員特典

- ☆1口(2,000円)につき普通乗車券綴り(170円区間×6枚)がついてきます。
- ☆市内約40施設で割引等の特典が受けられる会員証1枚。
- ☆本会主催のイベント案内等を定期的にお送りします。



ホームページはこちらから



申込用紙は京阪大津線主要駅に設置しています。

## 大津の京阪電車を愛する会

<http://otsusen.net>

〒520-0861 滋賀県大津市石山寺3丁目27-11  
TEL: 077-534-2800  
(祝日を除く月～金 8:40～17:25)

〒520-8575 滋賀県大津市御陵町3-1  
大津市未来まちづくり部・交通戦略室  
TEL: 077-528-2736  
FAX: 077-527-1028